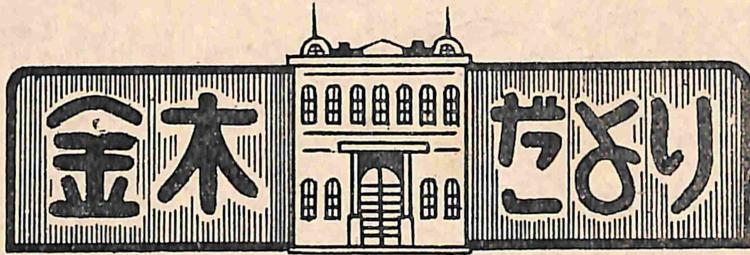


桜まつり
特集号



発行所 金木町役場
印刷所 津島印刷所

四月二十八日より

芦野公園の桜まつり

五月五日まで

家族連れに最適

今年から梅の花も咲く

芦野公園の桜まつりは、町、商工会の共催で、四月二十八日から五月五日まで八日間にわたって行なわれるが、昨年、動物園の周辺に梅を二百本を植えたので、今年梅の花も見られるので、例年と違った花見ができるかと前人気はなかなかよい。

屏風山権現崎県立公園の観光ルートの東口にあたる芦野公園は松と桜にかこまれた芦野湖をとりいれた景勝地である。芦野湖は、今から約二百六十年前の元禄年間に、木造俊元(五所川原地方)とともに津軽三新田として、津軽藩が開拓した金木新田の藤枝溜池である。

園内にある松はその当時植えられたものであろう。桜は日清戦役の際、英霊を祭る『征烈死碑』を建立した明治三十年に、今の供養堂前広場に植えたのがはじまりで、大正十五年に芦野公園と命名している。

昭和五年津軽鉄道が開通してここに芦野公園駅が設けられてから、津軽北部有数の観光地となった。

昭和三十三年に県立公園と指定されてから、施設の整備拡充をはかっており、昭和三十六年四月には児童動物園を設置し人気を呼んでいる。

この公園の強味は、自然をとりいれ、広大な芝生は家族づれの憩いの場となっていることである。またポイントで芦野湖を一週すれば、大倉連山をはじめ日本海岸の七里長浜、権現崎岩木山などの雄大な背景が

それぞれ変化のある趣きを感じ、観光客の眼を楽しませてくれる。芦野公園の周辺は、賽の川原、中島、ゲジョ盛のほか湯の川冷泉や金木遺跡などまだまだ埋れた観光資源がたくさんある。

【写真】(上) 動物園西側より見た舟付場附近 (下) 登仙岬桜トンネルの夜景

